

東條内閣
ノ成立

十月十六日近衛第三次内閣ハ、閣内意見不一致ノ結果總辭職ノ巴ムナ
キニ立廻リ同十八日東條内閣成立シ東條大使外務大臣ニ親任セラレ

タリ

新内閣ノ
交渉ニ對
スル方針

當時内外ノ情勢ハ極端且深淵ヲ極ムルモノアリ新内閣力如何ナルヲ
計リ以テ日米交渉ニ對シスルハ獨り國民一般ノミナラス全世界ヲ
舉テテ注視シ居リタム所ナリシカ、政府ハ夙ニ公正ナル基礎ニ於テ
日本國交關係ヲ對テ篤實交渉繼續ヲ決意シ組織^{五五}之範圍打開策ノ考
究ニ着手セリ、東條大臣ハ先ツ二十日其ノ第一條々々就任放言中ニ
於テ

嘗て國外交ノ窮極ノ目標カ世界平和ノ維持増進ニ在ルハ勿論ナルモ、
事密^五國生存ニ關レ又ハ其ノ權威ニ關スル場合ニハ飽志毅然タル態

其ノ二

交渉ニ関
海内閣ノ

ハ其立

事 帝國ノ事ニ關シ又ハ其ノ御免ニ關シハ聯合ニハ海軍部ニシテ
帝國代表ノ海軍ノ日海軍省長官ニ對シテ海軍部第二等ハ海軍省長官
以下

其ニ後年ナリ・海軍大臣ハ其ノ二十日其ノ海軍省長官ニ對シテ
日本海軍交際ニ關シテハ海軍省長官ノ同意ニ海軍部第二等海軍省長官
以下

當朝内務ノ關係ハ殊ニ且強國ニ對シテハ其ノ海内閣ノ海軍省長官
以下

度ヲ以テ是ヲ海軍省長官ノ先導ナリ歴史的使命ノ達成ヲ圖ラ
サルヘカラス

野村大使
宛中間
會

ト總ヘ交渉ハ更ニ繼續スヘキモ帝國ノ讓歩ニハ自ら讓度アルコトヲ
明ニシ次ニ二十一日野村大使ニ對シテ不取敢ノ措置トシテ
新内閣ニ於テモ公正ナル態度ノ下ニ於ケル國交調整ニ對スル態度
ハ前内閣ト異ル所ナク親方見解乃至主張ハ敢テ殆ト全部之ヲ明ニ
シテハ其ノ以テ軍口親方ハ米商ノ反省ヲ俟ツ態勢ニ存リ依テ親方ト
シテハ本交渉ニ以上其時日ヲ費スヲ許ササル事情ニアルコトヲ
尖トナク仄カシ九月二十五日親方案ニ對スル米商ノ對案ヲ至急求
ムルコトニ重勸ヲ附合ヲ續行スル様

外務省

其ノ二

